

科目区分：生活環境コース、学校教育実践コース、情報教育コース、人間社会コース

授業科目：生活科学概論

「生活科学概論」の授業評価

家政教育講座・野中 美津枝

I. 本授業の目的と概要

本授業は、生活環境コース1回生の必修科目であり、これから4年間大学で生活科学の各論を学ぶ導入となっている。また、学校教育教員養成課程、総合人間形成課程の選択でもあり、現代の生活科学の概要を認識し、生活者としての社会発展について、環境との共生、人との共生を前提とした価値観を習得することを目的とした。

現在、持続可能な社会の形成が人類の課題であり、これからの社会を担う世代に、生活者の視点で科学や社会について考える生活科学教育が求められている。そのため、本授業では知識偏重ではなく、生活者としての価値観を養うため、様々な参加型アクション志向学習を取り入れ、現代の生活問題について主体的に考える授業構成にした。テキストとして、「私たちの生活科学」(理工学者)を購入し、毎時間一章ごとを進め、14回の授業で全章が終了し、生活科学全般を広く理解できるように設計した。

〈授業スケジュール〉

- ①ガイダンス、第1章 生活科学とは
- ②第2章 暮らしと科学
- ③第3章 人間発達と社会生活
- ④第4章 家族と家庭生活
- ⑤第5章 暮らしと技術
- ⑥第6章 暮らしと環境
- ⑦第7章 暮らしの様式
- ⑧第8章 暮らしと消費
- ⑨第9章 暮らしと法律
- ⑩第10章 暮らしと健康
- ⑪第11章 暮らしと住まい
- ⑫第12章 暮らしと福祉
- ⑬第13章 暮らしと高齢者
- ⑭第14章 暮らしと文化
- ⑮試験とまとめ

II. 授業の工夫点

授業は座席指定で、4人を1グループとして、

毎時間、様々な現代の生活問題を取り上げて、グループ討論、ディベート、KJ法を使ったワークショップ、ラベルトーク、ケーススタディなどの参加型アクション志向学習を導入して授業を展開している。グループによって、課題追求や発表に差があること、また、学生のコミュニケーションスキルの向上のため、途中で1回席替えをした。

テキストに従って、毎時間1章ごとを進めるため、事前に読んでくることを課題としている。授業では、配布資料として、授業の進行や補足資料を印刷した授業プリントと、個人で考えたり、グループ活動を記入する提出用ワークプリントの2枚を用意している。

III. 授業評価の方法

(1) 受講者の出席状況

本授業は、1回生開講の専門科目であり、生活環境コース(22名)は必修であるため、受講者は1回生が大半を占めている。受講者36名中、1回生33名、2回生2名、4回生1名である。入学してすぐの前期科目であるため、例年出席率がよく、今年度も欠席があったのは36名中6名のみで、83.3%が皆勤であった。出席状況からみて、受講者は意欲的に授業に参加したと思われる。

(2) 授業評価

授業評価の方法は、H24年7月31日の第15回の授業参加者に、「授業アンケート」及び教育学部共通「教育学部DPによる授業評価」を実施した。「授業アンケート」、「教育学部DPによる授業評価」とも4件法による回答形式で、集計結果から考察した。また、授業についての自由記述による感想から分析した。

IV. 授業評価の結果

(1) 授業アンケートによる授業評価

授業アンケートによる授業評価の結果は、表1の通りである。

「Q1 教員の話し方・説明のわかりやすさ」に

表1 授業アンケート結果 N=36人 (%)

設問		+2	+1	-1	-2
Q1	教員の話し方・説明	52.8	47.2	0.0	0.0
Q2	教科書や配布資料等教材	58.3	38.9	2.8	0.0
Q3	授業の進め方	63.9	33.3	2.8	0.0
Q4	授業時間外学習の課題提示	5.6	27.8	58.3	0.0
Q5	授業への意欲	30.6	61.1	8.3	0.0
Q6	授業の満足度	44.4	50.0	5.6	0.0

については、+2「とてもわかりやすい」52.8%、+1「まあまあわかる」47.2%で、合わせると100.0%がわかりやすいと肯定的に捉えていた。「Q2教科書や配布資料等教材」については、+2「とても適切」、+1「まあまあ適切」を合わせると97.2%になり、テキスト、配布プリントは適切であったと考える。「Q3授業の進め方」も、+2「とても適切」、+1「まあまあ適切」を合わせると97.2%が適切と肯定的に捉えている。グループ活動を多く取り入れ、参加型の授業形態や考えさせる授業の進め方に対して一定の評価が得られている。

「Q4授業時間外学習の課題提示」については、+2「多すぎる」5.6%、+1「やや多い」27.8%、-1「やや少ない」が58.3%で、回答に適当がなかったため、回答欄横に「適当」と書いているものが8.3%あった。個人のレポート提出も2回実施したが、グループ活動での課題の場合、班員の中での個人差が生じた可能性は否めない。

「Q5授業への意欲」については、+2「とても意欲的に取り組めた」30.6%、+1「まあまあ意欲的に取り組めた」61.1%を合わせると91.7%が意欲的に取り組めたと自己評価している。授業に83.3%が皆勤していることから授業への参加意欲は評価できる結果と思われる。「Q6授業の満足度」についても+2「とても満足」44.4%、+1「まあ満足」50.0%を合わせると94.4%が肯定的に捉えていた。

(2) 教育学部DPによる授業評価

本授業における教育学部DPへの貢献度を表2に示す。DP1(知識・理解)は9割、DP2(思考・判断)は97%、DP3(技能・表現)、DP4(関心・意欲)、DP5(態度)は約8割が貢献したと評価

表2 教育学部DPへの貢献度 N=34人 (%)

教育学部DP		+2	+1	-1	-2
DP1	教育知識・理解	26.5	70.6	2.9	0.0
	専門的知識・理解	29.4	61.8	8.8	0.0
DP2	学校での思考・判断	38.2	58.8	0.0	2.9
	社会での思考・判断	29.4	67.6	0.0	2.9
DP3	教育活動での技能	20.6	58.8	20.6	0.0
	教育活動での表現力	26.5	52.9	17.6	2.9
DP4	学習課題の明確化	23.5	58.8	17.6	0.0
	主体的学習への意欲	23.5	67.6	5.9	2.9
DP5	職業人としての態度	20.6	55.9	17.6	5.9
	対人関係力	23.5	55.9	17.6	2.9

している。特に、本授業で目指したDP2(思考・判断)を97%が評価している点は、授業の成果があったと考える。(2人記入漏れのため34人)

(3) 授業の感想(自由記述)から授業評価

36人中、18人が「グループ活動」、12人が「ディベート」の学習活動をあげ、また、20人が「考えることの大切さ」を書いていた。ここに感想の一部を記載する。

- ・毎回授業で現代の生活における問題を考えたり、グループで話し合ったりしたことは非常にためになったと思う。普段真剣に考えることはないが、改めて考えると深刻な問題ばかりで、全人類一人一人が問題意識を持たなければならないと感じた。

- ・ディベートをしたり、班単位で活動をしたりと参加型の活動もあり、とても楽しく学習できたと思うし、他の人の意見を聞くことで新たな発見もあり、とてもおもしろかった。

- ・班で話し合ったり、ディベートをしたりして他人の意見を聞き、情報を交換することで、一つの事柄を深く追求でき、とても充実したものになりました。これから自分がどんな行動をし、次の世代に受け継ぐのか考えるきっかけとなり、貴重な時間でした。

- ・自分の身のまわりで何が起きているかを知ること、とても大切で、知るだけでなく、その問題ができるまでの歴史を知ったり、どのようにすれば対処できるのか、自分に何ができるのかを考えることが大切だとわかりました。

V. 終わりに

受講者は、生活科学の意義を認識し、生活者の立場で考える価値観を習得したと考える。